

令和5年2月21日

厚生労働省
医政局看護課長 様

一般社団法人全国保健師教育機関協議会
会長 岸 恵美子

第109回保健師国家試験の出題内容について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、保健師教育にご配慮いただき、厚くお礼申し上げます。

また、全国保健師教育機関協議会の活動に特段のご理解とご協力を賜り、感謝しております。

さて、2月10日に行われました第109回保健師国家試験について、当協議会会員校から寄せられた意見を集約し検討した結果につきまして、別紙のとおり、資料1と合わせてお届けいたします。

何卒、ご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

I 不適切問題

問題番号	理由	コメント
午前：12	正答が複数ある	正答が3つある。選択肢2、3、4が正答である。 <理由> 選択肢2：年に1回の提出を求めるが、必ずしも提出を求めるものではないと理解すると不正解となる。 選択肢3：幼稚園用、小学生用、中学・高校用の3つ（特別支援を含むと4つ）あるが、確かに小学生用と、中学・高校用は2つに分かれているため正答と捉えられる。 選択肢4：ここに挙げた疾患の児童生徒に使用するため正答である。
午前：20	正答なし	正答なし <理由> 選択肢1～3は誤答が明らか。選択肢4は資料1のとおり令和元年改正の児童虐待防止法の記載である。
午前：54	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と4が正答である。 <理由>設問文の「保健師が確認する情報で優先度が高い」を考える情報が不足している。「転ぶ」「むせる」はいずれも生命に関わる健康課題であり、いずれかを選ぶための情報が不足しているため、受験生は、選択肢2と選択肢4のどちらか1つを正答とすることができない。
午後：43	正答が複数ある	正答が2つある。選択肢2と4が正答である。 <理由>選択肢2は「母親に寄り添う言葉」と「母親の理解不足を指摘する」の2通りの解釈ができ、正答にも誤答にもなる。選択肢4は「現時点では早急」と「今後に向けて適切な情報提供」の2通りの解釈ができる。正答と思われる2で後者の解釈をした場合は4を選択する可能性がある。
午後：50	正答が複数ある	正答が複数ある。1と4が正答である。 <理由>教科書や資料から1と4の両方を正答と判断することができる。また実習等での学びから事例の状況を的確にとらえると4を選択すると考える。

II その他改善を要する問題

理由	コメント
設問の改善が必要である	午前 2：自治会は生徒会や学生自治会もあり地域組織の名称とは限らない。午前 46 の設問がヒントになっている。一般の方でも回答可能である。
	午前 5：正答が明らかである。設問に「未受診者への受診勧奨」とあり「未受診者」と「保健師」が含まれる肢が正答である。選択肢の表現に改善を要する。
	午前 10：インフルエンザ以外は小児科定点であり母集団が異なる。数を比較する場合は同じ母数からの出題を望む。
	午前 43：適切なのはどれかであるが、選択肢はいずれも不適切とはいえない。
	午前 44～46 第 102 回出題から状況設定が追加されているのは評価しているが、44 は選択肢 2 が変更になったのみで正答肢も同じ、45 は文言も正答肢も全く同じであったため、追加された状況設定が活かされていない。再使用問題の扱いの際には工夫願いたい。
	午後 47：精神保健福祉センター運営要領に、センターは診療機能を持つことが望ましい、とあり、状況設定が災害時のため、4 を不適切とすることに疑問が残る。
	午後 53：断面調査でオッズ比を問うのは違和感がある。オッズ比を出すならば症例対照研究が適している。表と「オッズ比を求めよ」の一文だけで回答ができる問いである。
使用する文言に留意されたい。	午前 28：出題基準に相対頻度とあり、それに沿った出題であるが、テキストのほとんどが「相対度数」を採用している。出題基準の用語の変更を検討されたい。
	午前 31：「政令指定都市」は法律の条文に則り「指定都市」が望ましい。
	午後 19：選択肢 1 は、調査項目の 3 階級をまとめて「割合が最も高い」としているのは不自然である。
	午後 21：選択肢 2 が、「20 歳未満の傷病」と「20 歳未満の障害者」の両方の意味に読み取れる。
	午前 54：選択肢 2 は、午後 40 選択肢 3 の「日常生活動作〈ADL〉」と同様に「A さんの日常生活動作〈ADL〉」とし、表現を合わせることが望ましい。

Ⅲ 良問について

良問について次の視点で意見を募ったところ特に下記の問題についてコメントがあった。設問のテーマや状況設定について工夫されている点を評価したい。

- ① 出題基準に沿い、新しい切り口である。
- ② 保健師養成課程卒業時に必要な知識と技術に関する問題である。
- ③ 実習・演習経験によって判断することが出来る問題である。
- ④ 難易度が適切である(よく学習した者は正答を学習が浅いと誤答を選ぶ)
- ⑤ グラフ・データ・画像など文章以外の情報によつて的確な判断ができる

問題番号	理由	コメント
午前 26	②④	選択肢の切り口が新しく、どれも公衆衛生看護管理上の課題である。
午後 6	②③④	実習・演習経験によって判断できる良問である。
午後 25	①⑤	医療費受給者証発行数の多い疾患に関する知識と、各疾患の特徴を組み合わせることで正答を導き出す問題であり良問だと考える。
午後 31	②	要保護児童対策地域協議会については、卒業時に必要な知識である。
午後 42	①②④	卒業時に必要な学校保健に関する知識を問う問題である。

Ⅳ 全体について

1) タキソノミーレベル分析の結果

第 109 回のタキソノミーは、Ⅰ：58 問 (52.8%)、Ⅰ'：12 問 (19.1%)、Ⅱ：18 問 (16.3%)、Ⅲ：13 問 (11.8%) であった。タキソノミーⅢの割合が増加し、保健師としての思考や判断を問う設問の増加は評価したい。一方で、タキソノミーⅠとⅠ'を合わせた割合は 71.9% と高かった。

第 103 回から第 109 回のタキソノミー分布の推移を見ると (図 1)、第 109 回ではタキソノミーⅡの割合が大きく低下していた。ⅡとⅢを合わせた割合が第 107 回までの水準に回復し、さらに増加することを望む。

状況設定問題では、タキソノミーⅢが 10 問と 104 回以降で最も高かったことは大いに評価したい。今後はタキソノミーⅡとⅢを合わせた割合が増加することを望む。

2) 保健師国家試験に適さない問題について

看護師・保健師養成課程で学修しなくとも回答できる問題 (午前 2、16、32) や、看護師養成課程の学修のみで回答できる問題 (午前 4、9、17、18、27、53、午後 21、22) が散見された。保健師としての技術や判断を問う問題が増加することを望む。

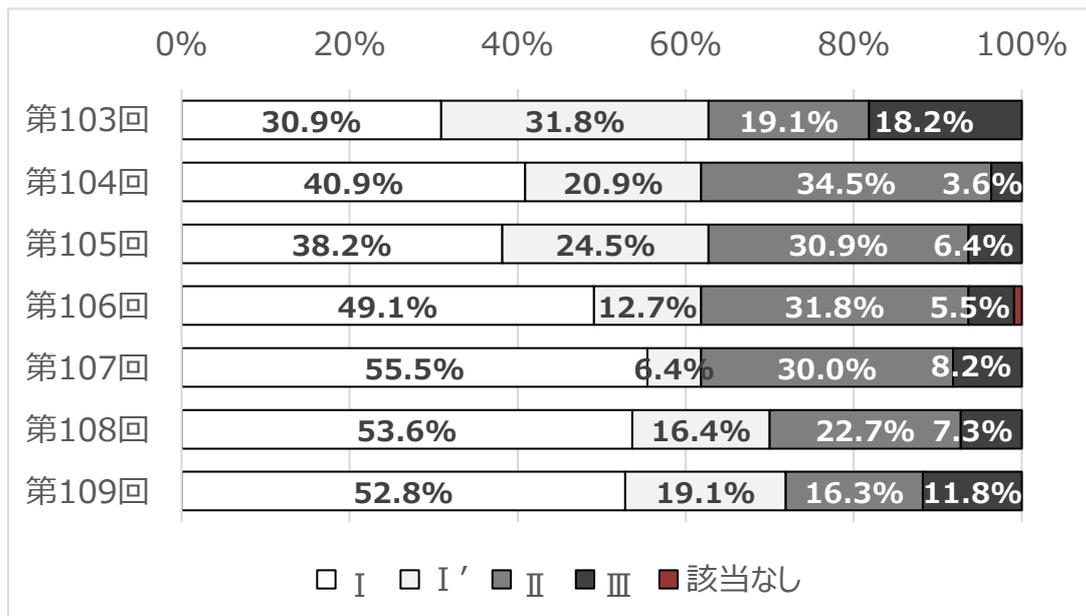


図1 タキソノミー分類の推移（全体）